

| | |
|---------|-----------------|
| 講義コード | 519401702 |
| 講義名 | 保育・教職実践演習(幼) CD |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | 幼児教育科(短大) |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 4時限 |
| 科目分類名 | 専門科目 |
| 科目分野名 | 教職に関する科目 |
| 対象学部・年次 | 短期大学部・2年 |
| 必須/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|------|-----------|------|
| 専任教員 | 西田 直樹 | 指定なし |
| 専任教員 | 山本 詩織 | 指定なし |
| 専任教員 | 教務委員会(短大) | 指定なし |

授業の概要

【授業概要】

この授業は、すべての実習を終了し、卒業(及び就職)を目前に控えた学生が、本学での学びを振り返り、就職後の自分の姿をイメージする中で、残された課題を発見し解決して行くものである。

【授業の方法】

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物、大型モニターを活用します。

②授業形態

スクール形式の配置。6名程度の班に分かれて、班ごとに調査、ディスカッション、発表(プレゼンテーション)をしてもらいます。一部、ワークシートを使って添削・返却する授業も行います。

③アクティブラーニング

本教科では、「これまでの学習を振り返り、課題を発見し、ディスカッションを行い、発表する」ことを通して、保育者として現場で働く基礎的な能力を獲得してもらいます。

④課題に対するフィードバック

発表(プレゼンテーション)を行った場合には、教員や受講生の評価を次回の授業時に通知します。また、授業内で配布・回収するワークシートは採点后、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。

授業の到達目標及びテーマ

【1 授業の目標とテーマ】

本授業の目的は、以下の3点である。

- (1) 教職課程の個々の科目の履修により習得した専門知識及び技能をもとに、幼稚園教諭としての使命感や倫理観を学ぶ。
- (2) 幼児や幼児を取り巻く環境を多面的に理解し、保育を実践できる能力を身につけること。

(3) 異なる保育観を持つメンバーと協力して「あそびのプログラム」(保育計画)を作成する力量を身につけること。

【2 学習成果評価マトリックスとの関連】

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ④人間性と協調性が該当する。

特に①②③を重視する。

【3 ディプロマポリシーとの関連】

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「8. 地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」を達成するための科目です。

授業計画表

保育・教職実践演習(幼)

| 回 | 内容 |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 第1回：ガイダンス(保育・教職実践演習とは、どんな授業か)(西田・山本) |
| 第2回 | 第2回：教職履修カルテの確認と短大での学びの振り返り(西田) |
| 第3回 | 第3回：卒業後の進路と実習で学んだこと(西田) |
| 第4回 | 第4回：幼児の発達と保育者の援助(西田) |
| 第5回 | 第5回：男女共同の子育てと保育者の関わり(西田) |
| 第6回 | 第6回：日本人の生命観と他界観(西田) |
| 第7回 | 第7回：古典文学と昔ばなし(西田) |
| 第8回 | 第8回：日本人の生活と年中行事(西田) |
| 第9回 | 第9回：子どもに「いのちの教育」をする意義(山本) |
| 第10回 | 第10回：子どもの生命認識に関する発達と保育(山本) |
| 第11回 | 第11回：保育における「いのちの教育」実践を検討しよう(山本) |
| 第12回 | 第12回：子どもにとって理想的な園を考えよう(山本) |
| 第13回 | 第13回：保護者にとって理想的な園、保育者にとって理想的な園(山本) |
| 第14回 | 第14回：理想的な園のグループ発表、今後の目標設定(山本) |
| 第15回 | 第15回：まとめ(山本) |

授業時間外の学修

各回の予習には30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項の見直しを行って下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。

(具体的な予習・復習の方法)

これまでに作成してきた教職履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。なお、準備学習については、①これまで授業の中で学んだこと ②実習を通して学んで来たこと ③社会への関心を深めてほしいことの3つの観点から予習課題のプリントを毎回配付する。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した授業内容の予習・復習を3～5時間程度行うこと

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

| | | | |
|---------|--------|-----------|----------|
| ①幼児教育者観 | ②知識・技能 | ③実践力と実務能力 | ④人間性と協調性 |
|---------|--------|-----------|----------|

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
|---|---|---|---|

ルーブリック

| 評価項目 | 優秀 (excellent) | 平均 (average) | 途上 (developing) | 未達 (unachieved) |
|---------------|---|--|---|--|
| 教材や授業の課題の理解度 | 授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる。 | 授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる。 | 授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる。 | 授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポート等への助言・新たな資料提供等の支援を行っている。 |
| 調査する力 (予習を含む) | 自ら進んで予習範囲を超えて調べるとともに、それを他者に説明することができる。 | 定められた予習範囲について自分の力で調べることができる。 | 定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な美便がある。 | 定められた予習範囲について伊良部られない。もしくは内容が不十分である。 |
| レポート力 (復習を含む) | 与えられたテーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使ってレポート等を作成している。 | 与えられたテーマについて、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。 | 与えられたテーマにある程度沿って、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。 | 与えられたテーマに沿ったレポート等になっていないため、教員が添削等の支援をしている。 |

成績評価法 (表形式)

| | 評価基準 | 備考 |
|---------|------|-------------------------------|
| 定期試験 | 60% | レポート形式の試験で実施する。「期末レポート」と呼称する。 |
| 小テスト等 | 10% | |
| 成果発表 | 10% | |
| 授業への貢献度 | 10% | |
| レポート | 10% | |
| その他 | | |

課題へのフィードバック方法

| 定期試験や小テストの結果について | 課題 (レポート等) について | 模擬授業、プレゼン、発言等について |
|------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 授業の冒頭で解説、講評する | 授業の冒頭で解説、講評する 授業の中で解説、講評する | 授業の冒頭で解説、講評する その都度解説、講評する |

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等
ビデオ会議システム
チャット
掲示板の活用
メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

| 書く・話す・発表する等の活動におけるAL | 経験値・技能を高める活動におけるAL | 授業時間外におけるAL |
|--|--------------------|------------------------|
| 発問の吟味・精選 プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用 | 実験観察・実習 | 授業前レポート（予習） 授業後レポート |

教科書

毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。

参考書

各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに
17. パートナーシップで目標を達成しよう

特記事項等

①実務経験のある教員
なし

②科目ナンバリング
SPR2401

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリット式授業を行う。

学生へのメッセージ

保育・教職実践演習は、これから就職して保育の現場で子どもたちと向き合っていくみなさんにとって、総仕上げの授業です。2年間の学びの成果を一つ一つ確認して行きましょう。

研究室（訪問先等）

西田：212研究室 山本：228研究室
月・火・水・木・金 が出講日です。研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

nishida@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

①定期試験 60%（各パートの最終課題を含む 学修成果確認のレポート試験を行います。）

- ②小テスト等 10%（授業内で指示した課題についてのレポートを評価します。）
- ③成果発表 10%（授業への参加態度を評価します。）
- ④授業への貢献度 10%
- ⑤レポート（通常） 10%